

妊娠中のコロナウイルスワクチン接種

英国内で接種されているコロナウイルスワクチンは、有効かつ安全であるとされています。

これらのワクチンには、コロナウイルスそのものは含まれていません。よって、妊娠中の女性や子宮内の胎児が、ワクチン接種により感染することはありません。

◆ 妊娠中にコロナウイルスワクチンを接種できますか？

The Joint Committee on Vaccination and Immunisation (JCVI)は、妊娠中の女性にもコロナウイルスワクチンを接種すべきと推奨しています。米国内においても、約9万人の妊婦さんに、主にファイザー社またはモデルナ社製のワクチンが接種されており、その安全性が確認されています。そのため、現時点でファイザー社またはモデルナ社製のワクチンが妊娠している場合の選択肢として推奨されています。ただし、妊娠前に1回目のワクチンを接種して、その後、妊娠した場合は、1回目のワクチン接種時に重篤な副反応がない限りは、1回目と同じワクチンを接種することが勧められています。

◆ 妊娠中にコロナウイルスに感染すると重症になりませんか？

妊娠中にコロナウイルスに感染しても、妊婦さん自身および赤ちゃんの発症リスクは低いとされています。ただし、妊婦さんが、妊娠後半に感染すると、妊娠していない同年代の女性と比べて、集中治療の必要性が高まることが示されています。また、早産率も2-3倍に上昇すると言われています。

◆ 妊娠中のリスクファクターは？

以下のような基礎疾患がある場合は、より注意が必要です。

- 免疫の異常
- 糖尿病
- 喘息
- 高血圧
- 心疾患

また、以下の場合も、注意が必要です。

- 肥満

- 年齢35才以上
- 妊娠28週以降

◆ 妊娠を考えていますが、ワクチン接種できますか？

妊娠考慮中の女性が、ワクチン接種を延期する必要はありません。ワクチンにより、妊娠しづらくなるとか不妊のリスクはありません。

◆ 授乳中でもワクチン接種できますか？

英国当局、米国、WHOいずれも、授乳中のワクチン接種を推奨しています。

◆ 副作用（副反応）が心配ですが、、、

妊娠により副反応がひどくなることはありません。一般的に、よく起こる副反応は、接種した腕の痛み、重い感じ、だるさ、頭痛、悪寒などです。これらは、通常、接種翌日くらいに、長くても1週間以内に軽快します。パラセタモール内服が、副反応を軽くするために有効です。稀ですが、腋窩や首のリンパ節がはれることがあります。また、非常に稀ですが、アストラゼネカ社、ジャンセン社製のワクチン接種後、血栓症および出血を起こしたケースが報告されています。

◆ ワクチン接種すれば、コロナウイルスに罹らないで済みますか？

残念ながら、100%病気を予防するワクチンはありません。また、ワクチンの効果を得るのに、接種後2-3週必要です。ご自身、ご家族、友人、同僚を感染から守るために以下の留意が必要です。

- Social Distancingを保つ
- フェースマスクをつける
- 手洗いを励行する
- 室内を換気する
- 当局のガイダンスに従う

以上、ご参考になれば幸いです。

ジャパングリーンメディカルセンター
倉田 仁 (くらた ひとし)

